

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

\*102回  
定中委

# アフターフラッシュは「7件の查問委員会への附帯申請書」をなす

日刊  
動労千葉

79.3.7

No. 52

国鉄動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電二二五八九・公衆二二七二)七〇七

一昨日、われわれは、革マルとそれに追随する一部反動分子による「千葉地本破壊オルグ」策動を、地本一四〇〇組合員の総決起によって完膚なきまでに粉碎し、勝利した。この間、手をかえ、品をかえて「千葉地本再建II破壊」の策動をくりかえし、その都度わが一四〇〇組合員の総反撃によって粉碎され、失敗させられた革マルと一部反動分子は、第一〇二回定中委「事実上の執行権停止確認」をタテに、公然と「千葉地本破壊オルグ」を企ててみたが、「東京地本八時集合」すら出来ず、ボロボロになり、完全に破産してしまったのである。この勝利をもたらしたものこそ千葉地本一四〇〇名の鉄の団結と、臨大「四つの闘う方針」へのゆるぎなき確信でありまた、彼らの第一〇二回定中委「事実上の執行権停止確認」の不正義性のゆえである。われわれは、追いつめられた彼ら反動分子と革マルが今後、ますます悪質極まりない動労の私物化、規約・規則無視の暴力的支配以外にないことをしつかりととらえ、一四〇〇組合員がさらに団結をかためて闘い抜こう！

第一〇二回定中委は、千葉地本が单一組織の地方機関であるとは、認められない事態であるとし、執行権停止に係りすることを確認した。

そして、千葉地本組合員へのオルグを実施したうえで、執行権停止の発効について中央執行委員会に一任するとしたのである。

さらに、千葉地本の再建は、急務であるとし、第一〇一回定中委以降の指令・指示「違反七件」について査問委員会に追加上申すると同時に「綾部君問題」については、正式の調査委員会で、調査することとなつたのである。

こうした第一〇二回定中委決定が一方的なものであることはもはや誰の目にも明らかではないか。

千葉地本再建II組織破壊攻撃は、一体だれが策動しているのか！

「単一組織の地方機関と認めない」「千葉地本再建IIその体制の早急な整備が必要」などなど、まさに单一組織体では全く考えられないような敵対的な字句で表現し、現に存在し、機能している千葉地本を全く認めない姿勢をあらわしている。さらに、「第一〇一回定中委以降千葉地本の指令・指示違反」などと全くのデタラメをもつて一方的にきめつけ、「査問委員会に追加上申」なる暴挙を行なつたのである。

第一〇一回定中委以降、千葉地本破壊II組織分断策動をくりかえしたのは、一体、誰だったのか。革マルと一部反動分子は、第一〇一回定中委以降、諸会議における挑発的発言、奇襲攻撃策動、あるいは、「指令なき集団」の水上町へのコソ泥的集結など、再三再四にわたって千葉地本排除II組織破壊攻撃のための策動をくりかえしてきたのだ。

当然な五項目の解説要求

われわれは、こうした彼らの千葉地本敵視、規

約・規則無視、機関運営ルール無視のやり方を絶対に認めるることは出来ないという立場から、千本組織第二六・二七号をもつて五項目の解説要求を

中央本部に提出すると同時に、こうした事態を放置したままでは、交流オルグや会議は、全く無意味であるばかりか解決をより困難にするだけであるからこそ、断固たる態度を表明したのである。

さらに、「査問委員会に追加上申」なるやり方が全く規約・規則無視そのものであることを弾劾しなければならない。つまり、査問委員会へ査問事項が追加出来るのは、同一事項のみであり、中央本部が指摘する七項目については、一〇一回定中委では設置された査問事項とは、全く関係のないものであり、このような場合は、あらためて査問委員会を設置しなければならないのである。

中央本部は、こうして、規約・規則を自ら無視し、千葉地本排除II組織破壊攻撃を強行しようとしてきたのである。

あくまでも正義の闘いを貫く

この間のわれわれの正義の闘いと訴えは、全国の同志に熱烈にむけられ、賛同されている。こんな理不尽な組織運営の中には、断じて、動労の発展。強化はあり得ないことは、もはや明らかではないか！

むしろ査問の対象となるべきは、革マルと一部反動分子だ！

われわれは、この第一〇二回定中委で確認された、七項目の査問事項をそのまま、そつくり、革マルと一部反動分子に返上してやらなければならぬ。